

# 同窓会助成事業

## 現実「ロボコン」そして映画「ロボコン」考

機械工学科教官 西山 等

平成15年10月19日(日)にアイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2003の近畿地区大会が舞鶴文化公園体育館で開催されました。7年毎にまわってくる地元開催であり、本校関係者のみならず舞鶴市民からのプレッシャーと声援を背(まともに?)に受け、見事舞鶴高専Bチームが優勝しました。ロボコンは今年度で第16回を数え、地区大会導入後13回目であり、今回は8年ぶり3回目の地区大会優勝、2年ぶり通算7回目の全国大会出場ということになりました。

全国大会出場チームは、地区大会優勝の余韻にひとりつつも11月23日(日)に国技館で開催される全国大会に向けて緊張の糸を継続しながらロボットの改造に取り組んでいます。なお、この原稿を書いている時期は10月末であり、この紙面で全国大会の結果報告ができません。悪しからずご了承下さい。近畿地区大会でのロボットの動きからして、全国大会でも大いに活躍してくれるものと期待しております。

話は変わりますが、ロボコンに関する話題として高専ロボコンがモデルとなった映画「ロボコン」が9月に東宝系映画館で公開されました(舞鶴は10月25日から11月7日の公開でした)。かつて



は青春ドラマといえは高校のスポコン的内容がドラマになったわけですが、高専を舞台にドラマ化されたのは高専発足以来初めてのことです。これも、テレビ放映等を通じてロボコンが注目され、ロボコンといえは高専、高専といえはロボコンというように、ロボコンが社会的認知を受け、さらには、高専における技術者教育の質の高さが注目された結果といえます。

映画「ロボコン」のストーリーをごく簡単に紹介すると、チームワーク最低の性格のちがう4人組(めんどくさいが口癖のやる気ゼロ娘の里美、仲間意識ゼロの天才設計者の航一、部長なのに統率力ゼロのロボコンおたくの四谷、腕はピカイチだが忍耐ゼロの技術系の竹内)が種々のぶつかり合いを経てチームワークが徐々に形成されていき、ロボコン全国大会で優勝を果たすといった内容です。映画評論家的には手





作りロボットの能力を競うコンテストに出場した少年少女の姿を描く青春映画。不器用な若者たちの友情とひたむきな頑張りが、笑いとさわやかな感動を呼び起こしたとあってよいかと思えます。

私も、映画「ロボコン」を舞鶴での公開初日に鑑賞しました。私の興味は、現実のロボコンを知っている関係上、映画「ロボコン」を監督の古厩智之氏がどのように描いているかを現実のロボコンと対比させて視てみたいところがありました。印象的には、全体的には派手さはなくスローテンポで物



語が進んだなと感じました。いわば地味に出来上がっていました。映画の一つのメインであるロボットコンテスト本番の場面、この場面の主役であるマシンの完成度や戦術はなかなかのものでした。しかしながら、これだけをドラマで表現するのは現実のロボコンをテレビ放映で視るとさほど違いはありません。古厩氏は映画「ロボコン」を地味に表現したかったのでしょうか。いやそうではありません。現実のロボコンは一般の人達にも人気があります。その人気の原因は、正解のない、いわばすべてのアイデアが正解となるおもしろさ、そのアイデアを実現する高専学生の技術力、さらには、人間とロボットが一体となった白熱した戦いが視るひとの心に感動を与えるからです。しかしながら、どうしても人が通常目にするのは本番あるいは放映上編集された内容であり、ロボットを作り上げるプロセスの苦労はやったものにしかわからないものがあります。アイデアの発案の時期は、まだ楽しいものでありますが、具体的設計の構想を練る、図面を書く、工作法を考えて種々の部品を作る、部品を組み立てて、ユニット化する、完成体が思うように動くまでは、そのような作業は頭の中での格闘とからだを使った部品の作り直し

ばかりで、目標を達成しようとする強い意志と試行錯誤の連続に耐えうる強い忍耐力がないと本当にすばらしいものできません。いわば現実のロボコンは、4月下旬の課題発表からコンテスト本番までは内なる熱い戦いです。また、ロボコンは個人で参加するものではありません。言い換えればグループ単位での取り組みとなります。したがって、長期にわたる継続的なチームワークとチームを取りまとめるリーダーの役割が極めて重要なものとなり、そのことがロボットの形や性能に表れるといっても過言ではないでしょう。チームワークやリーダーシップも内なる熱い戦いの一側面です。内なる熱い戦いは一緒にいると良くわかるのですが、傍目におかる派手な動きではありません。この内なる熱い戦いをドラマで表現するのは大変なことです。古厩氏は、このことを表現したかったと私は思っております。それが映画で地味さになって表れたのではないかと感じています。スポコンドラマでは、主として人と人との関わりあいでの熱い戦いが表現できますが、映画「ロボコン」ではそれに加えてロボットという「もの」との関わりも表現しなければならない点に難しさがあったのではなかろうかと考えています。このことをうまく表現しているのがNHKの「プロジェクトX」ではないでしょうか。やはり現実にまさるドラマなしと言えます。

高専ロボコン2003全国大会を数週間後にひかえ、ロボコンに係わる教官の一人として現実のロボコンが内にも外にもより熱い戦いとなることを切に念じます。最後になりましたが、いつもロボコン活動にご援助いただいております本校同窓会に厚く御礼申しあげるとともに、今後とも益々のご声援、ご協力よろしく申し上げます。

